

協働評価シート

事業名		差別をなくする市民の集い ～ハートFULL新居浜～	実施年度	平成24年度
部 局		市民部	課 所	人権擁護課
団体等の名称		劇団笑夢		
評価項目			評価者	評価
相互理解	それぞれの特性や立場を理解し合えたか	お互いの特性や立場を十分に認識、尊重して、事業を実施することができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
対等	双方が対等の立場に立っていたか	対等な立場で協議、事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
自主	市民の自主的な活動が尊重されたか	自主的活動を十分に活かして事業効果を増加させたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
自立	市民の自立化を阻害しなかったか	依存体質が助長されるなど、市民の自立化が阻害されることがなかったかどうかを評価。(新たな自発的事業展開につながり自立化が進んだ場合はA評価)	団体等	A
			市	A
目的共有	双方が協働事業の目的を共有できたか	協働事業の目的は十分に共有して事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
情報共有	双方がお互いの情報を共有できたか	情報を十分に共有しながら事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
公開	双方の関係を十分に公開できたか	全て公開され、利便性も高いかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
「相乗効果」が発揮され、独自で行うよりも効果的と認められるか		「相乗効果」が十分に発揮され、協働が効果的と認められるかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたか		十分に市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A

事業の目的、目標が達成されたか、どのような成果があったか、具体的な改善点等があれば記載（自由記述）

<p>団体等</p>	<p>○差別をなくする市民の集い～ハートFULL新居浜～ 一般公募の方々と一緒に出来た事は有意義であった。</p> <p>○小・中学生を対象とした表現力入門講座 他者とのコミュニケーションの取り方や自分を表現することを、学びの中に入れていく事の必要性を感じた。</p>
<p>市</p>	<p>○差別をなくする市民の集い～ハートFULL新居浜～の開催 実施団体や学校教職員、市職員による実行委員会を立ち上げることによって、全体の構成や人権啓発劇のテーマ等について協議し、各々の意見を尊重することができた。 また劇の練習に市の職員も参加することによって情報を共有し協働して実施することができた。</p> <p>人権啓発劇では劇団のノウハウを生かした質の高い舞台に仕上げることによって、より市民に人権問題に関する関心を深めることができた。 さらに市民参加の人権啓発劇にすることにより、出演者や裏方についても人権に関する啓発につながった。 人権啓発劇の公募の参加者が少なかったため、出演者を劇団員に頼ってしまった。次年度は早くから市民の参加を呼びかけたい。</p> <p>○小・中学生を対象とした表現力入門講座の開催 各小・中学校に表現力入門講座の希望を募り、市内3校が実施した。 (宮西小学校、中萩小学校、泉川中学校) 劇団による専門的な表現の講座を実施することにより、表現力の向上につながり、表現の楽しさを感じてもらえることができた。 8月に学校へ講座の希望を調査したが、時期的に遅かったため、実施する期間が短くなってしまった。</p>
<p>相互協議 結果</p>	<p>来場された市民の方々から「完成度の高い人権劇を観て人権について改めて考える機会ができた。」等の感想を得た。人権教育を推進する行政と演劇による表現力のある実施団体の特性が生かされ、反映されていると実感した。</p> <p>実施当初は相互理解ができていない部分も見られたが、協議を重ね、お互いの役割分担を認識し合うことができた。行政が裏方部分をサポートすることにより、劇団は質の高い舞台を表現、演出することに専念することができた。協働により完成した人権劇が市民の人権に対する関心や意識をより高めることができた。</p> <p>表現力入門講座については、小・中学生を対象としてワークショップを行い、他者とのコミュニケーションの取り方や自分を表現することを学びの中に入れ、生徒たちが発表することの楽しさを知るとともに表現力の向上が図られた。</p>